Japan. Meetings & Events
New ideas start here

MICE分野のサステナビリティに係る海外競合国・都市の取り組み事例（概要版）

JNTO
Japan National Tourism Organization

本事例集の対象国・都市

✓ 本事例集では、国際会議の開催実績＊1が豊富かつMICE分野のサステナビリティの国際的評価が高い＊2都市の中から、サステナビリティに係る取り組みが先行している欧米5都市と、開催地選定において国内都市の競合となり得るアジア大洋州5都市をベンチマークとして、その具体的な取り組みを紹介しています。なお、2023年3月時点での情報を収集しております。

本事例集の対象国・都市一覧

分類		都市名（国名）	国際会議件数（2015-2019年）	GDS-Index 2022のスコア
欧米先進都市	北欧	1．コペンハーゲン（デンマーク）	✓ 665件	✓ 86.70%（世界第3位）
		2．ヨーテボリ（スウェーデン）	✓ 218件	✓ 92.98%（世界第1位）
		3．ストックホルム（スウェーデン）	✓ 521件	✓ 84.08%（世界第7位）
	西欧	4．パリ（フランス）	✓ 1,110件	✓ 74.34%（西欧第11位）
	北米	5．モントリオール（カナダ）	✓ 445件	✓ 74.46%（北米第1位）
近隣競合都市	アジア	6．シンガポール（シンガポール）	✓ 800件	✓ 71.14%（アジア大洋州第5位）
		7．タイ	✓ 633件	✓ 73.66%（アジア大洋州第4位） *バンコクの値
		8．ソウル・コヤン（韓国）	✓ 686件	✓ 78.34%（アジア大洋州第1位） *コヤンの値
	大洋州	9．シドニー（オーストラリア）	✓ 412件	✓ 73.76%（アジア大洋州3位）
		１０．メルボルン（オーストラリア）	✓ 305件	✓ 76.55%（アジア大洋州第2位）

＊1：ICCA（International Congress and Convention Association）が公表する2015年-2019年の国際会議開催実績に基づいている。
＊2：ここでは、Global Destination Sustainability Movementが公表する「GDS-Index 2022」のスコアが一定程度高い都市を指している。

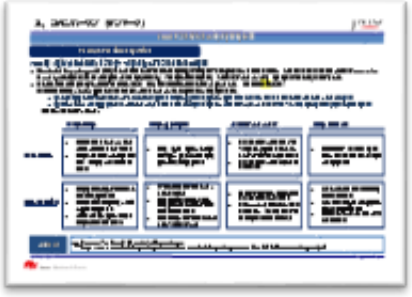
本事例集の構成

✓ 本事例集は、サステナビリティに係る「都市の紹介」、「CVBの戦略・計画」、「具体的な取り組み」、「コラム（国際会議のベストプラクティスや具体的なKPIなどの詳細情報）」を掲載しています。
✓ CVBの戦略・計画や具体的な取り組みについては、「行政・自治体」、「CVB」、「MICE施設」、「サプライヤー」の其々が抱える課題別に整理して紹介しています。

本事例集の構成（１都市当たり）

①都市の紹介（計1ページ）
✓ 都市のサステナビリティに関する概要
✓ MICE産業に関する基本情報
✓ 観光・MICE産業に係るCVBの主なKPI・実績

③サステナビリティに関する具体的取り組み（計2ページ）
✓ サステナビリティに関する具体的取り組み



②CVBの戦略・計画（計1ページ）
✓ CVBのサステナビリティに関する戦略・計画とそのポイント

④コラム（場合により掲載あり）
✓ 国際会議のサステナビリティやレガシー創出に係る具体的なベストプラクティス
✓ CVBが設定するKPIの具体的内容など

②～④は賛助団体・会員専用サイトに掲載しています。完全版はこちらから。https://members.jnto.go.jp
賛助団体制度と会員サービスについて：https://www.jnto.go.jp/projects/members/

1．コペンハーゲン（デンマーク）

都市のサステナビリティに関する概要*4

- ✓ コペンハーゲンは、先進国の温室効果ガス削減目標および途上国支援に関する取り決め「コペンハーゲン合意」が取りまとめられた「COP15（第15回気候変動枠組条約締約国会議）」や、「C40 World Mayors Summit 2019（2019年国際気候サミット）」など、サステナビリティに係る国際会議が開催された都市として有名である。
- ✓ 世界有数のコンパクトシティであり、すべてのホテルや会場は、コペンハーゲン空港から公共交通機関でアクセスできるほか、市内中心部のMICE施設、ホテル、観光名所、レストラン、ショッピング施設間は徒歩での移動が可能である。
- ✓ 市内のMICE施設の多くは「Green Key」認証を受けており、大規模MICE施設の100%、ホテル客室数の72%がサステナビリティ認証を取得している。
- ✓ サステナブルな食への配慮も進んでおり、コペンハーゲンの食料品の販売額の24%、公共機関で消費される食料品の90%はオーガニック食品が占めている。

MICE産業に関する基本情報

都市人口（2022年）*1	✓ 64万人
都市圏人口（2022年）*1	—
国際会議実績（2015-2019年）*2	✓ 682件
GDS-Index Score（2022年）*3	✓ 86.70%（世界第3位）
CVB/DMO	✓ Wonderful Copenhagen
主なMICE施設	✓ Bella Center Copenhagen（最大ホール収容人数：7,000人）

観光・MICE産業のサステナビリティに係る主な実績・目標

- ✓ 【実績】地域住民の72%が観光事業の継続的な成長を支持（2021年）*5
- ✓ 【実績】コペンハーゲンの訪問者のうち73%が周囲にデスティネーションへの訪問を推奨する意向（2017年）*5
- ✓ 【実績】大規模MICE施設の100%、ホテル客室数の72%が第三者認証を取得（2021年）*5

*1）UN, Demographic Yearbook system, Demographic Yearbook 2021
*2）ICCA Statistics Report 2019
*3）GDS-Index Results 2022
*4）Wonderful Copenhagen
*5） Tourism For Good by 2030

２．ヨーテボリ（スウェーデン）

都市のサステナビリティに関する概要[*4]

- ✓ ヨーテボリ市のサステナビリティに関する取り組みは、GDS-Index（2016～2022年）で6年連続トップを獲得するなど、長年にわたって国際的に認められてきた。
- ✓ 2020年にはEuropean Commission（欧州委員会）の「the European Capital of Smart Tourism in 2020」、Lonely Planetの「the world's Best Sustainable City Stay 2021」にも選ばれている。
- ✓ DE&I[注1]の分野では、2022年に「the European Capitals of Inclusion and Diversity Awards」を受賞している。
- ✓ 2030年までに化石燃料に依存しない都市を目指すというビジョンを掲げており、97％の再生可能エネルギー由来の公共交通機関を中心としたスマートなアクセスとモビリティ、95％のホテルが環境認証を取得している持続可能な観光エコシステム、イベントや会議のための強力なレガシープログラムなどを有している。

注1：Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包括性）を包括する総称。

MICE産業に関する基本情報

都市人口（2022年）[*1]	✓ **49万人**
都市圏人口（2022年）[*1]	—
国際会議実績（2015-2019年）[*2]	✓ **213件**
GDS-Index Score（2022年）[*3]	✓ **92.98%（世界第1位）**
CVB/DMO	✓ **GÖTEBORG & CO（Gothenburg Convention Bureau）**
主なMICE施設	✓ **Swedish Exhibition & Congress Centre** （最大ホール収容人数：1,500人） *展示場Hall Bには7,000人収容可能

観光・MICE産業のサステナビリティに係る主な実績・目標

- ✓ **【実績】ヨーテボリの訪問者の57％が持続可能なデスティネーションであると体感（2021年）[*5]**
- ✓ **【実績】市内のホテルの91％（2021年）、MICE施設の100％（2019年）が環境に係る第三者認証を取得[*5]**
- ✓ **【実績】商業宿泊施設の宿泊者数：250万人（2020年）に加え、民泊：27.7万人（2019年）、キャンプ場：22万人（2020年）の宿泊者数もKPIとして観測[*5]**

*1) UN, Demographic Yearbook system, Demographic Yearbook 2021
*2）ICCA Statistics Report 2019
*3）GDS-Index Results 2022
*4）Göteborg & Co
*5) Annual and sustainability reports｜Göteborg & Co

3．ストックホルム（スウェーデン）

都市のサステナビリティに関する概要[*4,5]

- ✓ ストックホルムは「the United Nations Conference on the Human Environment（国連人間環境会議、ストックホルム会議）」開催都市であり、開催50周年の節目である2022年には、環境問題、SDGsについて議論する「Stockholm +50」が開催されるなど、サステナブルなMICEデスティネーションとして取り組んでいる都市の1つである。
- ✓ 2010年にEUで初めて「European Green Capital（欧州グリーンキャピタル賞）」を受賞するなど、都市の環境対策を積極的に推進している。
- ✓ アーランダ空港では、スウェーデン航空管理部分の化石燃料によるCO2排出量をゼロにしたほか、空港にアクセスする鉄道はスウェーデンの認証である「Good Environment Choice Label」がついた電気を使用する車両を導入している。
- ✓ 市内のバスや電車に環境に配慮した電力やバイオ燃料を使用した車両を導入。市内のMICE施設は、いずれもゼロカーボン、省エネなどに配慮した建物となっているほか、市内のほぼすべてのレストランにおいて地元産の有機食材の使用、廃棄物の削減、リサイクルを重視した営業がなされている。

MICE産業に関する基本情報

都市人口（2021年12月）[*1]	✓ 約98万人
都市圏人口（2021年12月）[*1]	✓ 約241万人
国際会議実績（2015-2019年）[*2]	✓ 517件
GDS-Index Score（2022年）[*3]	✓ 84.08%（世界第７位）
CVB/DMO	✓ visit Stockholm
主なMICE施設[*4]	✓ Stockholmsmässan（最大ホール収容人数：3,010人）

観光・MICE産業のサステナビリティに係る主な実績・目標

- ✓ 【実績】市内の約80%のホテルがISO-14001（環境マネジメントシステム）の認定などの第三者認証機関によるサステナビリティに関する認定を取得[*5]
- ✓ 【実績】空港シャトルバスとして、2010年以来化石燃料を使わない、バイオバスやエタノールバスが運行[*5]
- ✓ 【実績】アーランダ空港を運営するスウェダヴィア社は、空港の自社管理部分について、化石燃料による二酸化炭素の排出をゼロにするという会社目標を達成（2020年）[*6]

*1) Statistics Sweden
*2) ICCA Statistics Report 2019
*3) GDS-Index Results 2022
*4) A venue for all occasions / Stockholmsmässan
*5) Facts and figures / visit Stockholm
*6) Stockholm Arlanda Airport / Environment

4．パリ（フランス）

都市のサステナビリティに関する概要*4

- ✓ パリは2015年のパリ協定を受け、高密度な都市空間におけるサステナビリティの取り組みを推進してきた。市長は、15分圏内で生活・レジャーが完結する「15分都市」のコンセプトを提唱しており、地域経済活性化や環境に配慮した都市づくりや、自転車や徒歩移動を奨励する取り組みを進めている。
- ✓ 例えば、3億ユーロを投じて大規模な自転車専用道路網「RER-Vélo」の整備を進めており、2025年から2030年にかけて、パリ中心部と市外の目的地を結ぶ合計12路線、720kmの延伸が計画されている。
- ✓ パリの特徴の一つである衣服、革製品、アートなどの地元文化の保護を、環境保護やフェアトレードと併せて推進しており、オーガニック素材、フェアトレード商品、地元産の商品などに対して、官民が様々な認証活動を展開している。
- ✓ 観光分野では、2021年に「Sustainable Tourism Conferences」を立ち上げ、観光セクター、市議会、自治体など関係者が数ヶ月にわたり検討を重ね、今後のサステナビリティに係る活動提言を進めている。

MICE産業に関する基本情報

都市人口（2022年）*1	✓ 49万人
都市圏人口（2022年）*1	✓ 1,071万人
国際会議実績（2015-2019年）*2	✓ 213件
GDS-Index Score（2022年）*3	✓ 74.34%（西欧第11位）
CVB/DMO	✓ Paris Convention and Visitors Bureau（PCVB）
主なMICE施設	✓ Paris Convention Centre（最大ホール収容人数：5,200人）

観光・MICE産業のサステナビリティに係る主な実績・目標

- ✓ 【実績】467件のホテルがパリ観光局の「Sustainable Accommodation in Paris」（市独自のサステナブルな宿泊施設の認証活動）に署名*5*5
- ✓ 【目標】総延長650kmにも上る大規模な自転車専用道路網「RER-Vélo」を2030年までに整備*6
- ✓ 【実績】人口密度21,154人/km2（世界６位）のコンパクトシティ*5

Japan. Meetings & Events
New ideas start here

*1) UN, Demographic Yearbook system, Demographic Yearbook 2021
*2）ICCA Statistics Report 2019
*3）GDS-Index Results 2022
*4）Paris Convention and Visitors Bureau
*5）Sustainable Tourism Conferences Paris 2021
*6）RER V -LE RÉSEAU VÉLO D'ÎLE-DE-FRANCE

5. モントリオール（カナダ）

都市のサステナビリティに関する概要*4

- ✓ モントリオールは合計で約2,000haに及ぶ20の大規模公園を有するなど、世界で最も緑豊かな都市の一つであり、「2018 Sustainable Cities Index（持続可能な都市ランキング）におけるPlanet sub-index（都市の環境に係る持続可能性を測定した指標）」では世界第10位にランクインしている。
- ✓ 2050年までにカーボンニュートラルを達成することを目的に、「Montréal Climate Plan: Objective carbon-neutral by 2050」を策定し、気候変動対策や防災・減災を図っている。
- ✓ Tourisme Montréalは、カナダの都市として初めてGDS-Indexに参画しているほか、Events Industry Council（EIC） の「Sustainable Event Standards」認証注1を取得するなど、北米において最もサステナブルなデスティネーションの一つである。
- ✓ モントリオールを代表するMICE施設であるMontreal Convention Centreは、「Boma Best（全米グリーンビルディング認証プログラム）」のシルバー認証やEICの「Sustainable Event Standards」のブロンズ認証を取得している。

注1：イベントやイベント業界のステークホルダーを対象として、8種類の環境・社会的責任に係る幅広い持続可能性の基準を定めた認証。

MICE産業に関する基本情報

都市人口（2022年）*1	✓ 177万人
都市圏人口（2022年）*1	✓ 434万人
国際会議実績（2015-2019年）*2	—
GDS-Index Score（2022年）*3	✓ 74.46%（北米第１位）
CVB/DMO	✓ Tourisme Montréal
主なMICE施設	✓ Montreal Convention Centre（最大ホール収容人数：5,615人）

観光・MICE産業のサステナビリティに係る主な実績・目標

- ✓ 【目標】多様な移動手段の利用促進により、自動車移動の25%を2030年までに公共交通機関に移行*4
- ✓ 【実績】901kmに及ぶ自転車専用道路網を整備*5
- ✓ 【実績】モントリオール・ピエール・エリオット・トルドー国際空港（約150都市への直行便が就航）からの高いアクセス性（市街地から約20分）*6

*1) UN, Demographic Yearbook system, Demographic Yearbook 2021
*2）ICCA Statistics Report 2019
*3）GDS-Index Results 2022
*4）Montréal Climate Plan: Objective carbon-neutral by 2050
*5）Montreal City
*6）Tourisme Montréal

6．シンガポール

都市のサステナビリティに関する概要[*4,5]

- ✓ シンガポール政府は2021年、「環境に配慮した政府」、「自然環境に囲まれた都市」、「持続可能な生活」、「エネルギーの見直し」、「グリーン経済」、「回復力のある未来」を 6 つの柱とする「Singapore Green Plan 2030」を発表。
- ✓ MICE分野においても、統合型リゾートであるResorts World Sentosaは施設全体で廃棄プラスチックを撤廃、Marina Bay SandsのSands Expo and Convention Centreはカーボンニュートラル会場となった。
- ✓ 宿泊施設についても、Pan Pacific Singaporeでは、電気使用量を削減するエコフレンドリーな設計にリフォームが進められるほか、Oasia Hotel Downtown Singaporeでは、巨大なグリーンカーテンを導入し、生物多様性の再導入と建物の温度上昇抑制を図っている。
- ✓ シンガポールで開催された環境保護イベント「2018 Schneider Electric Global Innovation Summit」では、使い捨て資材は一切使用せず、提供された食事もすべてサステナブルなメニューとなっていた。

MICE産業に関する基本情報

都市人口（2022年）[*1]	✓ **545万人**
都市圏人口（2022年）[*1]	—
国際会議実績（2015-2019年）[*2]	✓ **805件**
GDS-Index Score（2022年）[*3]	✓ **71.14%（アジア大洋州第5位）**
CVB/DMO	✓ **Singapore Tourism Board（STB）**
主なMICE施設	✓ **Sands Expo and Convention Centre**（最大ホール収容人数：7,000人）

観光・MICE産業のサステナビリティに係る主な実績・目標

- ✓ **【目標】サステナビリティ基準を<u>2023年</u>までに作り、2024年までに国際的に認知される[*6]**
- ✓ **【目標】2025年までに6つのMICE会場と、SACEOS会員企業の<u>80%</u>が、国際的又は国内で認められたサステナビリティ認証のいずれか、あるいは両方を取得する[*6]**
- ✓ **【目標】2030年までに「シンガポール・グリーンプラン2030」に沿った廃棄物の削減、<u>2050年までにCO2排出量ネットゼロ</u>を達成する[*6]**

*1) UN, Demographic Yearbook system, Demographic Yearbook 2021
*2) ICCA Statistics Report 2019
*3) GDS-Index Results 2022
*4) Singapore Exhibition & Convention Bureau（SECB）
*5) Singapore Tourism Board
*6) Singapore MICE Sustainability Roadmap

7．タイ

都市のサステナビリティに関する概要*4

- ✓ タイの政府関係機関は自然環境の持続可能性を支えるため、国内の154の国立公園で使い捨てプラスチックの使用を禁止や、ホテル業界のプラスチックごみ削減のガイドラインの策定などを実施している。
- ✓ 同国のCVBであるThailand Convention and Exhibition Bureau（TCEB）は、2008年にMICE産業の「グリーンミーティング・ガイドライン」を、2012年にはサステナビリティ戦略を策定し、世界で２番目にISO-20121（イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム）の導入を奨励している。
- ✓ TCEBは2015年には「サステナブルイベント・ガイドライン」を策定し、イベント分野のサステナビリティに係る活動を拡充。現在では、MICEの7つの重点分野として「魅力的な歴史と文化」、「CSRとグリーンミーティング」、「食の旅」などを掲げ、コンテンツ開発の支援を行っている。

MICE産業に関する基本情報

都市人口（2022年）*1	—
都市圏人口（2022年）*1	✓ 839万人 *バンコク都市圏の値 ✓ 6,609万人*タイの値
国際会議実績（2015-2019年）*2	✓ 805件*バンコクの値
GDS-Index Score（2022年）*3	✓ 73.66%（アジア大洋州第4位）*バンコクの値
CVB/DMO	✓ Thailand Convention and Exhibition Bureau（TCEB）
主なMICE施設	✓ Queen Sirikit National Convention Centre (QSNCC)（最大ホール収容人数：5,688人）

観光・MICE産業のサステナビリティに係る主な実績・目標

- ✓ 【実績】首都バンコクのMICE会場のサステナビリティ認証取得率は100%（2022年）*4
- ✓ 【実績】「Thailand 7 MICE Magnificent Themes」では11都市で162種類のユニークなMICEコンテンツを開発（2020年）*4

*1) UN, Demographic Yearbook system, Demographic Yearbook 2021
*2）ICCA Statistics Report 2019
*3）GDS-Index Results 2022
*4）Thailand Convention and Exhibition Bureau

8．ソウル・コヤン（韓国）

都市のサステナビリティに関する概要[*4,5]

- ✓ 韓国の首都ソウルは、76か所のMICE施設を有するグローバルMICEの一大開催地として知られ、2015年から2022年にかけて「Global Traveler Awards Best MICE City」を8年連続で受賞している。
- ✓ 代表的な空港である仁川国際空港は、ACI（国際空港評議会）の空港サービス品質調査において12年連続第１位を獲得している。コヤンはソウル北西に位置する100万人を超える衛星都市であり、高速道路・鉄道でソウルから20分程度でアクセスすることができ、韓国最大の展示施設であるKINTEXが立地している。
- ✓ 漢山と漢江に囲まれ、トレッキングコースとして有名な高陽ヌリ遊歩道や、ラムサール条約に登録されている長項湿地などを有する緑豊かな都市で、Goyang Convention & Visitors Bureauは「韓国のサステナブルMICE首都」を目指して、韓国で初めてGDS-Indexに参画している。

MICE産業に関する基本情報

	ソウル	コヤン
都市人口（2022年）[*1]	✓ 960万人	—
都市圏人口（2022年）[*1]	—	✓ 111万人
国際会議実績（2015-2019年）[*2]	✓ 805件	—
GDS-Index Score（2022年）[*3]	—	✓ 78.34%（アジア大洋州第1位）
CVB/DMO	✓ Seoul Convention Bureau	✓ Goyang Convention & Visitors Bureau
主なMICE施設	✓ COEX（最大ホール収容人数：7,000人）	✓ KINTEX（最大ホール収容人数：2,000人）

観光・MICE産業のサステナビリティに係る主な実績・目標

- ✓ 【実績】191か国から14.5万人が医療観光を目的に韓国を訪問し、その50%がソウルに訪れる[*6]
- ✓ 【実績】仁川国際空港は、ACI（国際空港評議会）の空港サービス品質調査において12年連続第１位[*4]
- ✓ 【実績】コヤン市の廃棄物リサイクル率は90.3%にも上る（2021年）[*7]

*1) UN, Demographic Yearbook system, Demographic Yearbook 2021
*2）ICCA Statistics Report 2019
*3）GDS-Index Results 2022
*4）Seoul Convention Bureau
*5）Goyang Convention & Visitors Bureau
*6）Medical Tour Seoul
*7）GDS Performance Improvement Report Goyang

9．シドニー（オーストラリア）

都市のサステナビリティに関する概要[*4]

- ✓ シドニー市が策定した「Sustainable Sydney 2030–2050 Continuing the Vision」では2050年に向けた10の指針に対する進捗状況を測定するための10の目標が設定されている。
- ✓ 観光産業は市経済を支える主要産業の一つである一方で、宿泊施設や娯楽施設の商業廃棄物は市全体の47%、炭素排出量は21%、飲料水の14%を消費するなど、環境面でも大きな負荷を与えていた。このような状況から2018年に宿泊施設や娯楽施設、MICE施設、業界団体などで構成されるSustainable Destination Partnership（SDP）が設立された。
- ✓ SDPでは市政府との連携のもと、再生可能エネルギー、再生水の導入や廃棄物の削減などを展開している。
- ✓ SDPメンバーのICCシドニーは、オーストラリアのグリーンビルディング評議会が環境的に持続可能な地区を認定するグリーンスターコミュニティ認証で6つ星を、米国グリーンビルディング評議会ではゴールドLEED認証を取得している。

MICE産業に関する基本情報

都市人口（2022年）[*1]	✓ 約25万人
都市圏人口（2022年）[*1]	✓ 約537万人
国際会議実績（2015-2019年）[*2]	✓ 434件
GDS-Index Score（2022年）[*3]	✓ 73.76%（アジア大洋州3位）
CVB/DMO	✓ Business Events Sydney（BESydney）
主なMICE施設	✓ ICC Sydney（最大ホール収容人数：8,000人）

観光・MICE産業のサステナビリティに係る主な実績・目標

- ✓ 【目標】2035年までにシドニー市における<u>ゼロエミッション</u>を達成する[*5]
- ✓ 【目標】2030年までに全住民が日常生活に必要な機能に徒歩<u>10分以内</u>にアクセス可能に[*5]
- ✓ 【目標】2050年までにコミュニティの結束と社会的相互作用を強化し、地域住民の<u>75%以上</u>がコミュニティの一員であると感じることを目指す[*5]

*1）UN, Demographic Yearbook system, Demographic Yearbook 2021
*2）ICCA Statistics Report 2019
*3）GDS-Index Results 2022
*4）Business Events Sydney
*5）Sustainable Sydney 2030–2050 Continuing the Vision

１０．メルボルン（オーストラリア）

都市のサステナビリティに関する概要*4

- ✓ メルボルンは、ファースト・ネーションズ（先住民）やコーヒー、ストリートカルチャーなどの文化的資産や国際的に評価を受けている先進的な気候変動対策が特徴的な都市である。
- ✓ メルボルンを含むビクトリア州は、2050年までに二酸化炭素排出量ネットゼロを目指すロードマップを掲げており、家庭やオフィスのクリーンエネルギーへの移行、水素燃料電池自動車やゼロエミッション車などの新技術への投資、農業や自然環境保護への新技術の導入を進めている。
- ✓ Melbourne Convention Bureauは、「Melbourne Sustainability Policy」において 、2020年から2025年にかけて毎年度、サステナビリティに関する目標と優先的な実施事項を定め、実施状況を公表している。
- ✓ 代表的なMICE施設であるMelbourne Convention and Exhibition Centre (MCEC)は、同施設に隣接するビルの屋上駐車場に「Melbourne Skyfarm」という都市型農場を建設するなど、環境分野で先進的な取り組みが進んでいる。

MICE産業に関する基本情報

都市人口（2022年）*1	✓ 19万人
都市圏人口（2022年）*1	✓ 497万人
国際会議実績（2015-2019年）*2	✓ 308件 *ビクトリア州全体の値
GDS-Index Score（2022年）*3	✓ 76.55%（アジア大洋州第2位）
CVB/DMO	✓ Melbourne Convention Bureau
主なMICE施設	✓ Melbourne Convention and Exhibition Centre (MCEC) （最大ホール収容人数：5,564人）

観光・MICE産業のサステナビリティに係る主な実績・目標

- ✓ 【実績】メルボルン市街地の公共交通機関は100%太陽光発電由来のエネルギーで稼働
- ✓ 【実績】Melbourne Convention and Exhibition Centre (MCEC)はMICE施設で世界初のGreen Building Council of Australiaの6-Starを取得 *4
- ✓ 【実績】メルボルンのビッドペーパーの85%には、サステナビリティに関する情報を掲載（2021年）*4

*1) UN, Demographic Yearbook system, Demographic Yearbook 2021
*2）ICCA Statistics Report 2019
*3）GDS-Index Results 2022
*4）Melbourne Convention Bureau